秀賞

かわいい いもうと

新潟県新潟市立五十嵐中学校
３年　遠藤　心花

「13 歳差!?」兄弟姉妹はいるかと聞かれて 13 歳差の妹がいるというとたいてい驚かれます。そのあと決まって、

「そんなに年が離れているとかわいくて仕方ないでしょ。」

と聞かれるのが、妹が１歳になる頃まで嫌で仕方がありませんでした。

お母さんのお腹に赤ちゃんがいると知ったとき、うれしくない気持ちが強かったのは事実です。もっと年が近ければ違ったかもしれない。お父さんとお母さんは私が大人になったときに弟か妹がいれば絶対私のためになると言ったけれど、一人っ子の方が良いし、と思った記憶があります。お母さんが妊娠中に体調が悪く家事をやらなければいけなくなり、何で私がやらなきゃいけないんだろう、赤ちゃんさえいなければこんな負担がないのに、と思っていました。反抗期も重なり実際に一人っ子が良かったと両親に言ったり、妊娠中のお母さんに暴言を吐いたりしたこともありました。実際に赤ちゃんが生まれてお母さんと一緒に退院してきても、どうやって抱っこしていいかもわからないし赤ちゃんに接している姿を見られるのが嫌で複雑な気分でした。

中学１年から２年は自分でも感情のコントロールがうまくいかず学校での友達関係もうまくいかず、学力も上がらず学校でのストレスが家で爆発している状態でした。家で妹が寝ているから静かにして、とか、妹がいるから出かける場所が限られるとか、どうして自分ばっかり犠牲を払わなければいけないんだろうと、自分本位にしか物事を考えていませんでした。この頃は自分の居場所がどこにもない暗い闇の中にいる感じで、毎日毎日気持ちが沈んでいました。学校に毎日行くというタスクをこなすのでせいいっぱいでした。

ですが妹はだんだん大きくなり、寝返りをうてたりお座りをするように日々成長して、人間らしくというか、私が笑いかけると笑ってくれるようになっていました。この頃からでしょうか、私の気持ちに変化が表れたのは。あるとき、自分が小さい頃の写真を見せてもらったとき妹にそっくりでびっくりしました。「このときはああでこうで」とお父さんお母さんが話しているのを聞いて、私は愛されているんだなと実感し素直にうれしくなりました。妹は歩けるようになり

「ねぇね。」

と一日に何度も呼んでくれるようになりました。私が帰ってくると喜んでお出

迎えしてくれます。私が買ってあげたぬいぐるみを“ねぇね”と呼んで大事にしてくれています。今も出かけたりすると
　「こんなに年が離れているとかわいいでしょ。」
と言われて、
「まあまあです。」
と答えていますが本当はすっごくかわいいです。自分でもこんなに妹がかわいくなると思っていなかったので、自分の変化にも自分自身驚いています。今までは一人っ子で、与えられるものも多く、与えられたものは独り占めできましたが、今はそれが２分の１になってしまっても妹がうれしそうにしているのを見ると幸せは２倍以上になっています。妹は私のまねを何でもします。口まねをしたり、おどりのまねをしたり。私のことをすごくよく見ています。だからこそ、妹がまねしたくなる、妹のお手本となるようなお姉ちゃんになりたいなと思っています。
　妹が小学校に上がる頃には私は大学生になっていて一緒に暮らしていないかもしれないけれど、いつまでも自慢のお姉ちゃんでいたいと思います。
　はなちゃん、もう少し大きくなったら一緒に洋服とか買いに行こうね。お姉ちゃん、はなちゃんのためにセンス磨いておくからね。あと困ったことがあってお父さんお母さんに言いにくいことがあったら、いつでもお姉ちゃんに相談してね。たった二人の姉妹だから。